柑橘

８月の農作業管理

指導販売課

「一果入魂」こだわりを持った生産管理に努めよう

エムダイファー水和剤は令和8年10月末以降使用できないので注意しましょう！

１．ミカンバエ防除を徹底しよう

防除期間　８月１５日～８月３１日

散布量　５００ﾘｯﾄﾙ以上／１０ａ当り

◎ 散布ムラのないよう、丁寧に果実全面にかかるようにしましょう。

◎ ミカンバエ防除にあわせて黒点病、ミカンハダニ、サビダニの防除も行いましょう。

病害虫	薬剤名	備　考
ミカンバエ	**モスピランＳＬ液剤 2,０００倍**	**収穫前１４日前まで（モスピランの総使用回数 3 回以内）**
黒点病	ジマンダイセン水和剤 ４００～６００倍 ※中晩柑は６００倍で使用	極早生、早生みかんにはエムダイファーは使用しないで下さい(温州みかん:収穫６０日前までの使用のため)
ミカンハダニ ミカンサビダニ	ダニゲッターフロアブル 2,０００倍	ミカンハダニ・サビダニの両方に効果があります。 ※葉裏までかかる様、丁寧に散布しましょう。

２．摘果作業について

仕上げ摘果では、内なり・裾なり・傷果・小玉果（2S 以下）を摘果しましょう。

着果状況に合わせ、摘果時期・摘果方法を考えましょう。（平年値）（単位：mm）

品　種	８月２０日	品　種	８月２０日
早生温州（2S カット）	３８ﾐﾘ以下	せとみ（M カット）	４７ﾐﾘ以下
普通温州（2S カット）	３３ﾐﾘ以下	宮内伊予柑（M カット）	51 ﾐﾘ以下
高糖系温州（2S カット）	３１ﾐﾘ以下	太田ポンカン（S カット）	３５ﾐﾘ以下

３．タイベックマルチ被覆園の管理

被覆時期…８月上・中旬(普通温州、高糖系)・・・水田転換園では早急に被覆
※極早生・早生でも早急に被覆を行って下さい。
※ 乾燥が続いている場合、降雨後又は灌水を行い被覆して下さい。
灌水時期…日中に葉が巻き始めたら株元に５０リットル程度で潅水

４．フィガロンによる熟期促進（２回目）

早期出荷に向けた着色促進対策

品種	時期	薬剤名
極早生、早生(２回目)	８月上旬 (１回目から２週間～２０日後)	フィガロン乳剤　３,０００倍
中生、普通みかん 高糖系(２回目)	８月中旬 (１回目から２週間～２０日後)	フィガロン乳剤　２,０００倍

フィガロンを散布することにより、エチレン生成を促進し、果実の着色を進める。また、根のオーキシン濃度を高めることで、一時的に根の成長を休止させ、養水分の吸収を抑制する。その結果、光合成産物が果実に集積され、糖度の向上と熟期が早まり着色が促進される。樹勢の弱った樹には散布しない。

落葉果樹

	散布時期	対象病害虫	防除薬剤
西条柿	8月上中旬	カキノヘタムシガ	パダン SG 水溶剤　　1,５００倍
		うどんこ病、炭疽病	トップジン M 水和剤 1,000 倍　または ストロビードライフロアブル 3,000 倍
	8月下旬	カメムシ	テルスターフロアブル　　3,０００倍

野菜

8月中下旬に播種する野菜　白菜、ニンジン、大根、ホウレンソウ

秋播き野菜の定植準備

播種又は定植の２週間前までに、１㎡当たり堆肥を２～３kg、苦土石灰を 100g 施用して耕耘し、１週間後に元肥として「くみあい有機入り化成苦土Ａ801 号」を 200g 施用して再度耕耘しましょう。

ただし、馬鈴薯への苦土石灰の施用はそうか病の発生原因となるので避けましょう。

水稲

―今年の出穂予定日―（平年の気温の場合）※今年は 3～5 日早い

田植日	コシヒカリ	ひとめぼれ	きぬむすめ	ヒノヒカリ
５／１０	７／２８	－	－	－
５／２０	８／１	８／５	８／１０	－
５／３０	８／４	８／８	８／１４	－
６／１０	－	８／１１	８／１８	８／２４
６／２０	－	－	－	８／２７

●カメムシ、いもち病の防除

重点防除	時期	粉剤	液剤	粒剤
《１回目》 カメムシ	穂揃期 （出穂後３～５日）	ノンブラストレバリダ 粉剤 3～4 kg/10ａ	トライ K フロアブル 1,000 倍 60～150 ﾘｯﾄﾙ/10ａ	ガッツスター 粒剤 3 kg/10ａ
《２回目》 カメムシ	１回目から １週間後			

●トビイロウンカの防除（ひとめぼれ、きぬむすめ、ヒノヒカリ）

時期	薬剤名		
8 月上旬 と 9 月中旬	トレボン粉剤 DL 3～4kg/10a	トレボン乳剤 1,000 倍 100～150 ﾘｯﾄﾙ/10a	のいずれかを散布

◎営農相談フリーダイヤル　　０１２０－０８２７２２